

ホンヤミカコさん (オカリナ奏者)

7月に韓国で開催されたオカリナの国際フェスティバルの映像がSNSで流れている。「コンドルは飛んでゆく」の演奏が流れるとひときわ大喝采が起きた。ホンヤミカコさんの演奏だ。海外でも活躍するオカリナ奏者のホンヤさんは今、浅間高原に移り住み2年目。やさしい人柄も手伝って周辺の市町村での演奏機会も広がっているが、最近は孀恋でも教室を開催するなど地域への溶け込みも早い。でも、どうして浅間高原に移り住んだのか伺うと、「以前に四万十市に3年ほど住みましたが、縁あって初めてここに来た時、凄く気に入りました。東京に近いのにこんなに自然があって。住んでみると暮らしやすいですね」と。生まれ育ったのが北海道帯広市だから、故郷を思わせる気候に居心地もよさそうだ。オカリナとの縁話は意外だった。ワーキングホリデーでオーストラリアへ行くため上京した折、街角のパントマイムで聞いたオカリナの演奏に強烈に心が揺さぶられたのが始まりだという。その後、留学したシドニーではストリートミュージシャンとして街角でオカリナを吹くようになっていた。そして日本に戻ってからストリートミュージシャン活動を続けたのが人生の転機に繋がったと語る。「これから、町内会や福祉施設などでも気軽にオカリナを聞いていただける活動も増やしたいし、オカリナの国際フェスティバルを孀恋でやりたい！」と夢も多い。



不思議な上舞台溶岩

12世紀の平安時代末に噴出した上舞台溶岩は、溶岩としてはきわめて珍しい特異な特徴を備えています。山頂側の部分には、溶岩と火砕岩が交互に重なっており、まるで成層火山の内部をみるようです(写真1)。これらの層は山頂に向かって傾斜しています。先端側には火山岩塊からなる火山角礫岩があり、一見するとブロック状溶岩のようですが、よくみるとやはり山頂に向かって傾斜した層状の構造があります(写真2)。こうした様子は、溶岩というよりは、山頂部を構成する火砕丘の一部のようです。上舞台溶岩は、なぜこのような不思議な特徴を示すのでしょうか。上舞台溶岩は普通の溶岩ではなく、激しい噴火により山頂火口付近に出来た火砕丘の内部が高温で互にくっつきあい、溶岩のようになって流れ下ったものだと考えられます。溶岩というよりは、内部が流動化し流下した火砕丘そのものらしいのです。



写真1 溶岩と火砕岩が互いに重なっている様子

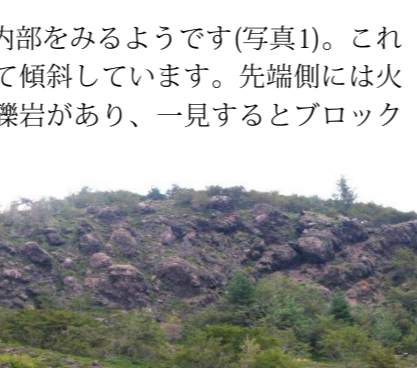


写真2 火山角礫岩が層をなしている様子

解説：高橋正樹教授
(日本大学文理学部地球科学科)

- 9月16日(日) 親子で火山防災デイキャンプ
- 9月23日(日) ジオパーク認定2周年記念講演会
- 10月6-8日(土-月) 第9回ジオパーク全国大会(アポイ岳)
- 10月21日(日) 吾妻峡モニターツアー
- 11月 3日(土) 孀恋村・長野原町文化祭



イベント情報・活動報告

新たな認定ジオガイドの仲間が加わります！



浅間山北麓ジオパーク認定ガイド講習が終了し、新たな認定ガイドの仲間が加わりました。これから力を貸して頂き盛り上げていけたらうれしく思います。また、今後も新たな認定ガイドを増やしていきたいと思っております。興味がある方は次の機会にガイド講習を受けてみてはいかがでしょうか。

活動報告 6月~9月



オカリナ演奏会・野鳥講演会

発行元：浅間山ジオパーク推進協議会
Mt. Asama Geopark Promotion Council
〒377-1524 群馬県吾妻郡孀恋村鎌原494-45
TEL/FAX：0279-82-5566
URL：www.mtasama.com
E-mail：geo-asama@vill.tsumagoi.gunma.jp
Facebook：www.facebook.com/asamageopark
制作担当：広報・観光委員会

ガイド案内の受付しています
「浅間山北麓ジオパークガイドの会」の認定ジオガイドによる案内(有料)の受付をしております。ご希望の方は、左記、推進協議会事務局までお申し込みください。
[料金表]
ジオガイド 半日¥5,000~8,000
1日¥10,000~16,000



お詫び

前号あさまびとvol.05の表紙の記事に誤りがありました。申し訳ありませんでした。訂正は下記ようになります。
訂正は下記ようになります。
・本文3~4行目「国の特別天然記念物」→「国の天然記念物」
・本文6行目「特別天然記念物」→「県の天然記念物」



あさまびと

特集：吾妻川エリア紹介



写真(上)：吾妻渓谷 鹿飛橋

楽しもう紅葉を

浅間山麓から吾妻峡まで

浅間山北麓の林へ入るとナナカマドが真っ赤な実を付け、蔦や楓が赤や黄になる。秋の気配が足音を立ててやって来る。浅間山北麓の秋が始まる。山に登って秋を感じるのもよし、草原で花や虫と戯れるのもいい。体全体で秋を感じられるのが浅間山北麓の特色である。紅葉は浅間山から里へだんだんと下りてくる。吾妻川に架かる雁沢橋から八ツ場大橋までの約3.5kmにわたる崖や奇石、滝など変化に富んだ美しい景色が続く。その紅葉は美しい。10月中旬から紅葉が特に美しくなる。浅間山北麓で昔から紅葉の名所といわれてきた吾妻渓谷。その遊歩道(十二沢駐車場(鹿飛橋)小蓬菜の見晴台)を楽しもう。



【吾妻峡モニターツアー】

平成30年10月21日(日)
吾妻峡モニターツアーが開催されます。
申込みは裏面下部に記載の浅間山ジオパーク推進協議会へメールまたはお電話ください。

吾妻川は浅間高原をほぼ西から東へ横切るように流下しています。吾妻川に沿って移動すると、兩岸には多くの崖地形が見られます。左岸は溶結した白根軽石流（火砕流）堆積物が崖をつくり、右岸は浅間軽石流（火砕流）堆積物の崖となっています。兩岸には段丘礫など河川によって堆積した地層も露出するため、火山噴出物の新旧や分布範囲などを探ることで、大地の成り立ちを紐解くヒントが多く隠されている地域でもあります。天明3年（1783年）の浅間山の活動では、鎌原土石なだれが吾妻川に流れ込み、下流域で甚大な水害をもたらしました。

本エリアを浅間山北麓ジオパークでは吾妻川エリア（Fエリア）とし、5つの見どころ（ジオサイト）があります。天明3年の遺物や石碑、記録などが多く残されており、浅間山の火山活動と当時の人々の暮らしへの影響なども学ぶことができます。



F-5 吾妻峡
火山のエネルギー・規模の大きさを今に伝える自然遺産



F-3 旧新井村
泥流に呑み込まれた幻の村



F-4 丸岩
火山活動の名残 柱状節理



F-1 雲林寺
天明3年、泥流に流され柱2本を残し消えた寺（30年後の1813年に再興）



F-2 常林寺
土石なだれに流された寺（流出後、現在地へ再建）

八ッ場ダム発掘調査について

八ッ場ダム建設工事に伴う発掘調査は、平成六年度から始まり、今年度で二十五年目を迎えています。

本調査は群馬県の遺跡等調査組織である公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が行っています。

ダムの水没地区の全域に対する遺跡の有無の調査から始まり、遺跡があると思われる地域には、地表から旧石器時代に至る地層に詳細な調査が行われています。昨年度は十七遺跡の発掘調査と八遺跡の整理作業が行われ現在も継続中です。

発掘調査現場を見学できた時もありましたが、現在は工事も大詰めとなり、水没地区全域が工事地区となっているため見学することは出来ません。

調査の状況は、調査事業団のホームページで逐次紹介されています。また、年度末には「遺跡は今」という小冊子で、その年度内の各遺跡の調査状況が写真入りで紹介されています。二九年度の小冊子は、「浅間北麓ジオパーク総合インフォメーションセンター」及び「道の駅八ッ場ふるさと館」に置いてありますのでご覧下さい。

道の駅八ッ場ふるさと館



地域の農産物直売所や八ッ場食堂、情報休憩コーナーが設けられており、天然の足湯にも入ることができます。ダムの貯水池にみたく『八ッ場カレー』は大変好評を得ています。

吾妻川エリア拠点施設

まずは拠点で情報収集！

「道の駅八ッ場ふるさと館」で情報を集めてからジオサイトに行くのと、より吾妻川エリアを楽しめます！



遺跡が語る不思議な歴史

平成八年度から本発掘調査に従事されている事業団八ッ場ダム調査事務所長の藤巻幸男氏によると、この地域の遺跡からは、県内の平野部とは異なった特異な地域性が認められるようです。それは、自然を糧とする縄文時代の集落遺跡は数多く点在していますが、稲作農耕が始まる弥生時代中期後半から奈良時代までの九百年間の集落遺跡が見当たらず、古墳王国と言われる群馬県ですが、古墳時代の集落遺跡もないのです。そして、平安時代に入ると集落遺跡が急増し、長野原町に分布する遺跡の半分は平安時代の遺跡だと言うのです。

九百年もの空白が何故起きたのか。平安時代の人々は何を求めてこの地域に参入したのか。まだ謎に包まれています。この地域を知るための大きな手掛かりになるかもしれません。

発掘調査の出土品は、発掘情報館（群馬県渋川市北碓町下箱田七八四一・平日及び日曜日の九時～十七時）に代表的な物が展示されており、足をお運びになつては如何でしょうか。

